

部活動の外部化

部活動の顧問不足に悩む学校が増えてきている中、運動部の休日の指導をスポーツコーチの派遣企業に委託する中学校が出現しました。

この取り組みを始めたのは、東京都杉並区の和田中学校です。

和田中学校というと、保護者や地域住民らで作る地域本部が進学塾と契約し有料で進学指導する「夜スペ」という取組で一躍脚光を浴びた学校であり、今回の取り組みは、それを更に進めて、部活動にまで広げたものといえます。

その内容は、9つの運動部の内、野球やサッカーなど6つの部の保護者が企業と直接契約を結び、生徒1人当たり1回（3時間）500円を支払うというものです。

受託した企業は、公認資格を持ったコーチが指導に当たり、安全管理にも責任を持つとしており、これによって、和田中学校では、顧問なしでも土日に運動部活動ができることになりました。

和田中学校では、家庭の負担を考え、契約は月2回までに限定すると共に、子どもを参加させるかどうかは各家庭の判断としています。

「夜スペ」の時もそうだったのですが、今回も、和田中学校の取り組みに対しては議論があると思われます。しかし、部活動について顧問不足が深刻化する中、一つのショック療法であることは間違いないでしょう。

部活動、取分け運動部活動の意義については、今更の感がありますが、

- ・生涯にわたってスポーツに親しむための基礎作り
- ・体力向上と健康の増進
- ・豊かな人間関係作り

等といった意義があり、いずれの学校でも熱心に取り組んでいます。

この部活動について、新しい学習指導要領（平成20年3月告示）では、「生徒の自主的、自発的な参加により行われる部活動は、スポーツや文化及び科学等に親しませ、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養等に資する」とした上で、「学校教育の一環として、教育課程との連携が図られるよう留意すること。」とされています。

また、その際、「地域や学校の実態に応じ、地域の人々の協力、社会教育施設や社会教育関係団体等の各種団体との連携などの運営上の工夫を行うよう」求めています。

このように、部活動については「学校教育の一環」に位置付けられていますが、部活動に対する意識には教師間で相当の温度差があるようです。

部活動は生徒とのコミュニケーションを深め、生徒指導を行う上で重要なツールであり、必要なものだと考えている教師が多く存在する一方、部活動は社会体育に位置付けるべきだ、また、負担が大きいので顧問はしたくないと考えている教師も少なくありません。

私が教育長をしていた折、中学校の校長会から、部活動を社会体育に位置付けるよう要望を受けたこともあります。

部活動の顧問をされている教師を見ると、教科指導等本来業務の他に担当する部活動の指導、大会等への引率、大会の運営等の為に、土日もないような状態で頑張っている方々が大勢いらっしゃいます。そうした教師の姿を見ていると、頭が下がると同時に、その教師の家庭生活はどうなっているのかと心配してしまいます。

このように部活動は、教師の犠牲的な精神によって支えられている側面が強いといわざるを得ませんが、教師の置かれている状況を考えると、今後、教師の熱意だけで部活動を維持していくことは難しくなっていくだろうと思っています。

こうした中、和田中学校のように部活動の指導を外部化する事は、教師の負担を軽減し、部活動の指導のレベルを維持、向上させるための一つの方策といっても良いでしょう。

ただ、そうはいっても、例えば、顧問と外部企業のコーチとの連携や危機管理対策、更には保護者の負担の問題などもあり、そのあり方については、今後引き続き検討していく必要があると思っています。

部活動を巡っては、これまで述べてきたような教師の負担の問題に止まらず、少子化の影響から、多くの学校では部活動の存廃問題が切実であり、1つの学校だけで子ども達の希望を満たすことは難しくなっています。

このように、部活動の置かれている状況は厳しいものがありますが、地域における社会体育の受け皿が十分でない現状を踏まえると、学校における部活動の重要性は依然として変わっていません。

この為、各学校に対しては、今後とも部活動への積極的な取り組みを期待しますし、教師が少しでも部活動に意欲的に取り組んで行けるよう配慮、工夫をしていただきたいと思っています。

特に、「部活動休養日」や「適切な練習時間」の設定を各学校において徹底し、教師や生徒の負担軽減に配慮すべきです。

また、地域やボランティアとの連携も欠かせません。積極的に、地域の人材の活用を図るべきです。

更に、地域によっては複数の学校で一つのチームを編成するといった取り組みがなされていますが、こうした学校間の連携はますます重要になるでしょう。

部活動に関しては、各学校ともその置かれている環境によって様々な課題を抱えていると思いますが、子ども達の心と体の健全な育成を図るためにも、それぞれの学校において、生き生きとした部活動が展開されるよう願って止みません。

(塾頭：吉田 洋一)